

(1) 報告事項

- ア 前回（11月1日開催）の調査特別委員会の概要  
について
- ウ 専門的知見の活用について  
（11月14日 辻教授、高田教授面談結果）

※報告事項イ関係資料は別資料 当日配付

平成29年 11月27日

目 次

<報告事項>

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会概要	.....	1
専門的知見の活用について（教授面談結果）	.....	3

ア 前回（11月1日開催）の調査特別委員会の概要について

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会 概要

平成29年11月 日

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会

日 時 平成29年11月 1 日（水） 13時29分から14時47分まで 休憩  
14時56分から14時56分まで

場 所 第1委員会室

概 要

1 議 題

(1) 報告事項

ア 前回（10月5日開催）の調査特別委員会の概要について

○書記から、資料に基づき調査特別委員会概要について説明をした。

イ 中核市移行等に係る先進市調査の結果について

○書記から資料（抽出した調査対象市分）に基づき報告を行った。

次の内容について新たに中核市移行に係る調査を11月14日までに行うことので了承された。

①対象中核市

今回調査した中核市のうち、平成17年以後に中核市へ移行し、かつ人口が小田原市と同規模の市（30万人程度まで）

②調査内容

中核市移行年度の前後2年度の範囲での財政状況及び決算カード

③移行後の事務処理に要する経費

中核市移行を断念・見送るとした上越市及び指定申請をした鳥取市における検証（財政シミュレーション）内容

ウ 任意協議会の協議結果に係る市民説明会等の状況について

○資料に基づき所管（企画政策課広域政策担当）から説明がされた。

<主な質疑、意見>

- ① 小田原市の市民説明会への参加者が少ない要因は何か。
- ② 資料中、項目4の参加者からの主な質問事項が記載されているが、記載順が質問の多かった順と理解してよいのか。
- ③ 資料中、項目4の参加者からの主な質問事項の中に、市民意向の把握手法についてという質問があるが、説明会の中で参加された市民の説明の内容についての理解度と合併の必要性についての必要度等を分析し、市民の意向の把握をどのようにするのかという検証をしたのか。

- ④ 両市の説明会が終了したが、その後、説明会の状況等を踏まえ両市の間で話し合いが持たれたのか。

<回答>

- ① 説明会の開催にあたり広報紙やホームページ、自治会等を通じ周知はしたが、若干、周知期間が短く、限られた場所、時間であり都合が付かなかったのではと考えられる。また、合併の方式が編入合併であること、小田原市民のサービス水準が大きく変わらないことから市民の関心が低かったということも考えられる。
- ② 厳密にそれぞれの件数を今申し上げることはできないが概ね、質問の多い順に記載している。
- ③ 市民意向の把握については、今後の取り組みとして更なる周知を図るため各種団体等へ説明を実施する考えである。その中で任意協議会の結果やそれに基づく合併に対する市としての考え方をわかりやすく説明していく考えである。
- ④ 市民意向調査のアンケートが小田原市は10月31日を締め切りとして、また南足柄市は11月13日を締め切りとしている。その後、取りまとめを行い、分析等を行った段階で両市の市民の意向が見えてくる。したがって、現時点で直ちにその結果をもって具体的な判断をするということはないと考えている。

## (2) 協議事項

### ア 今後のスケジュールについて

○書記から資料に基づき、説明を行った。

<委員長より>

- ・現在行われている市民意向調査の結果が11月中に取りまとめられることから、その後、南足柄市と同時期にその結果報告が予定されることからその時期に本調査特別委員会を開催する可能性がある。
  - ・専門的知見の活用に係ることとして、必要とあれば事前に勉強会等も開催したい。
  - ・専門的知見の活用の報告（1月下旬から2月中旬）の会場については、全員協議会室とする。
- 上記について了承される。

### その他

参考として、南足柄市市民意向調査（アンケート）を配付した。

特記事項

メモ

ウ 専門的知見の活用について（11月14日 辻教授、高田教授との面談結果）

県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会 （専門的知見の活用）	
概要	
平成29年11月27日	
専門的知見の活用（中核市移行に係る分析等）に係る打合せ	
日 時	平成29年11月14日（火） 16時30分から18時05分まで
場 所	政策研究大学院大学 コモンルーム
相手方	国立大学法人 一橋大学 副学長 辻教授 国立大学法人 政策研究大学院大学 高田教授
出席者	今村委員長、山崎書記
概 要	<p><b>1 議 題</b></p> <p><b>（1）報告開催等について</b></p> <p>開催会議 県西地域の中心市のあり方に関する調査特別委員会                      開催日（報告日） 平成30年1月28日（日）午後1時15分から                      開催場所 小田原市役所3階 全員協議会室                      対象者 議員のみ                      （委員会については傍聴希望者に公開することとしているため、なるべく多くの傍聴者に傍聴させる）</p> <p>進行内容（案）</p> <p>①13：15～13：17 再 開・・・委員長                      ②13：17～13：25 教授紹介・・・委員長                      ③13：25～15：00 報 告・・・辻教授、高田教授からの中核市移行に係る分析等の報告                      （パワーポイント及び卓上配布資料による）                      高田教授からは中核市に係る一般論・総論を                      辻教授からは、久留米市を事例に各論を</p> <p>④15：00～17：00 質 疑・・・調査特別委員から教授に対し質疑 及び                      委員外議員から教授に対し質疑</p> <p>⑤17：00～17：05 取りまとめ・・・委員長                      ⑥17：05～17：10 散 会・・・委員長</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録は、要点筆記を基本とする。なお、意見交換等行う際は、暫時休憩し、記録はしない。</li> </ul>

## 2 主な取り交わし内容

### ■現況

#### ○今村委員長

- ・任意協議会、市民説明会等の状況を踏まえ、現状の小田原市及び南足柄市の状況を説明。
- ・仮に合併をしないとした場合、本市においては中核市移行に係る協議が行われる状況となるが、現状、中核市に移行する場合のメリットが見えない中、保健所業務・産業廃棄物処理業務・児童相談所業務等が特に懸念されると考える。
- ・神奈川県内でも中核市を目指す市がない状況。
- ・将来の人口規模からも、どうしていくのか。
- ・そもそも、これからの地方自治体はどうあるべきものなのか。
- ・このような中、新年度に向け議会としてもきちんとした下地を作り、対応をしていきたいと考えている。

#### ○両教授

- ・中核市への移行は、市が保健所業務や産業廃棄物処理業務等を持つという意識がなければならないのが前提である。
- ・また、県からそのような業務が移譲されることから、中核市へ移行をするという方向となれば十分調整を行っていくことと、人員の確保が必要である。

### ■提示資料

#### ●任意協議会に係る資料

- ・任意協議会の協議項目と協議結果（協議会資料）
- ・合併について考えるシンポジウム結果概要
- ・任意協議会日より、協議結果（市民周知用冊子）、南足柄市作成資料

#### ●中核市移行に係る先進市調査結果（11月1日委員会再調査資料）

- ・対象都市の財政状況、決算カード
- ・上越市における中核市移行に係る検証資料
- ・鳥取市における中核市移行に係る検証資料

#### ○両教授

- ・先進市調査結果は財政状況の変動が記されているが、この数値だけでは分析し難い。
- ・鳥取市においては、これから中核市になろうとしているため、効果等も出ていない。そこで、小田原市と人口や地勢等が似ている久留米市を例に分析等を行うことは考えられる。
- ・なお、資料については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「人口ビジョン」等も参考としたい。
- ・また、久留米市は定住促進や連携中枢都市制度も考えているため、関連資料として必要と思われる。
- ・財政状況であるが、各市の財政指標（経常収支比率、起債限度額等の推移）

	<p>からの視点も必要かと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• いずれにしても、期間が 2 か月程度しかないため、当方も国等の資料を調べるが、小田原市議会側としても上記情報、資料の収集を願いたい。</li> </ul>
特記事項	
メモ	<p>.....</p> <p>.....</p>